

教育心理学におけるアドラー心理学の適用に関する考察

向 後 千 春

(早稲田大学人間科学学術院)

1. 問題

フロイト、ユングと並んで臨床心理学を基礎づけたアルフレッド・アドラーが体系づけた心理学理論はアドラー心理学（あるいは個人心理学, Individual Psychology）と呼ばれている。しかし、アメリカの入門心理学の教科書ではアドラー心理学は無視されているかあるいはひどくねじ曲げられて書かれていた (Silverman & Corsini, 1984)。アドラー心理学は日本の心理学教科書においても正当に扱われているとは言えない。さらには教育心理学の分野ではほとんど言及されていない。わずかに劣等感の概念が（しばしば誤って）言及されるのみである。

アドラー心理学は親業訓練の分野や学級経営の分野でとりわけ有用な理論と技法を提供している。それにもかかわらずアドラー心理学が取り上げられることが少ないのは、その理論とともに独自の思想が構築されているためと思われる。しかし、アドラー心理学の中心概念である共同体感覚 (Social interest) に言及することなくアドラー心理学を位置づけることは不可能である。

本論考では、アドラー心理学を教育心理学の中に位置づけるとすれば、どのような扱いが可能なのかを検討する。

2. アドラー心理学の実績

育児と子どもとのつきあい方に関しては、親業訓練としてSTEPという名称でコース化された (ディンクマイヤーとドライカース, 1985)。また、学級運営に関する実践書も多く出版されてきた (たとえば, Nelsen(2000)や古庄(2011)など)。そうした技法は有効なものではあるけれども、アドラー心理学の理論を知らない人にとっては、それが革新的なものであればあるほど抵抗を感じるだろう。また、アドラー心理学の理論が今までとは違う世界観の選択を提案するものであるために、そうした認識を共有していない場合には、職場同僚同士の齟齬を生むこともあるだろう。こうした背景もあり、アドラー心理学は子どもの教育や中等教育に有用な技法を提供しているにもかかわらず、その実践は全国に点在する自助グループまでの範囲でしか共有されてこなかったように見受けられる。

3. アドラー心理学の再評価

当初から実証科学を目指してきた心理学にとって、その中にある種の指向性（あるいは思想性）を内包しているような心理学理論は扱いが困難であったかもしれない。しかし、時代は移り、コミュニティ心理学やポジティブ心理学などの進展を見ると、その先駆とし

てのアドラー心理学を再評価し、位置づける動きが見られる。たとえば、コミュニティ心理学とアドラー心理学の関係については、King & Shelley (2008)が書いている。また、Leak & Leak (2006)はアドラー心理学とポジティブ心理学の関係について書いている。

こうしてみると青年期から成人期に渡る人生の課題 (ライフタスク)、所属の問題、競争から貢献への転換、人生の意味を与える共同体感覚の育成について正面から理論構築しているアドラー心理学が教育心理学の枠組の中、あるいはその外側で教えられることによって、人々のWell-beingや幸福に生きることの可能性を増大させることが十分に期待できる。

4. メタ能力としての共同体感覚

アドラー心理学の理論は、全体論や目的論など人間の見方については、伝統的な科学とは相容れない前提を採っている。これを崩さずに実証科学にどのようにアンカーを打つかということがこれからの課題となるだろう。たとえば、アドラー心理学の言う共同体感覚は高度に抽象的な概念であり、これを操作的に定義するのはかなり困難な仕事である。しかし、これをしなければアドラー心理学の位置づけができなくなり、違う世界のお話になってしまう。たとえば、共同体感覚をひとつのメタ能力として定義づけること、どんなコミュニティにおいても仲間を作り、自分が能力を発揮することで、コミュニティに所属し、そこに貢献できるような能力というような定義で研究を進めていくことが可能な解決策であるように思われる。

引用文献

- ディンクマイヤー, ドライカース (柳平彬訳) (1985) 子どものやる気, 創元社: 大阪
- 古庄高 (2011) アドラー心理学による教育, ナカニシヤ出版: 京都
- King, R. A. and Shelley, C. A. (2008) Community Feeling and Social Interest: Adlerian Parallels, Synergy and Differences with the Field of Community Psychology. *J. Community Appl. Soc. Psychol.*, 18: 96-107.
- Leak, G. K. and Leak, K. C. (2006) Adlerian Social Interest and Positive Psychology: A Conceptual and Empirical Integration. *The Journal of Individual Psychology*, 62(3): 207-223.
- Nelsen, J., Lott, L., and Glenn, H. S. (2000) *Positive Discipline in the Classroom*, 3rd ed., Three Rivers Press: NY.
- Silverman, N. N.; Corsini, R. J. (1984) Is it true what they say about Adler's Individual Psychology? *Teaching of Psychology*, 11(3): 188-189.